



図書館情報学実習生 実習体験記

今年は、7月7日(月)～25日(金)の3週間、図書館情報大学の学生12名が、中央図書館を中心に図書館情報学の实習を行いました。

田才 孝子

今回、筑波大学附属図書館では、様々な係を数日間ずつ回って実習させていただきました。そのため、利用者の方と直接関わる業務と、利用者とは関わらなくても、図書館の運営にとって重要な業務を両方とも体験することができました。また、短い期間ではありましたが、複数の係を回ったので、各係ごとの業務内容だけでなく、各係同士の協力や、係を越えてどのように業務が流れていくのかなど、図書館全体がどのように運営されているのかを中において感じることもできました。

実習中は大学で講義を受けていて良かったと思うこともありましたが、ほとんどは知っていても上手くできないこと、初めてやることだらけでした。レファレンスでの蔵書検索などは、大学でも何度もやっていることなのにまだまだ早くできませんし、雑誌受け入れのシステムや相互貸借のシステムなどは使ったこともなく、なかなか上手く使えませんでした。システムを扱う以外の業務でも、この図書館のことを良く知っていませんし、知識としてはあっても、実習の中で教えていただく新鮮で、より理解が深まるように思います。

3週間という短い期間では、全ての係を回ることとはできず、残念ではありましたが、本当に貴重な時間を過ごすことができました。いつも丁寧に対応して下さった筑波大学附属図書館の方々に、心から感謝しています。

(ださい・たかこ 図書館情報学科3年)

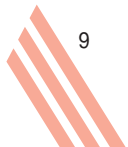
富田 恭子

今回の図書館情報学実習で、私は医学図書館業務・レファレンス業務などの利用者に直接サービスを提供する業務と、図書受入係や収書計画係などの利用者からは見えない業務の両方をさせていただき、大変多くのことを学ぶことが出来ました。その中でも大学の講義では学ぶことが出来ない、図書の発注データの入力や図書の登録・採番など図書が配架されるまでの工程を実際に見ることが出来たことはとても貴重な体験になりました。逆にレファレンス業務では講義で学んだことを少しでも生かしたいと思っていましたが、実際にカウンターに座ってみると、講義と現場ではやはり違うこと、講義で学んだことだけでは不十分であることも実感しました。

また、最後の希望体験実習で体芸図書館でも実習することができ、三つの図書館それぞれの業務の特徴に気づくことも出来ました。中央図書館では細分化されている業務を医学・体芸図書館では少ない人数で行わなければならないということが最も印象に残りました。大きな図書館で実習してみたいと思い筑波大学附属図書館を希望したのですが、同時に規模の小さい図書館でも実習することができ、とても良い機会であったと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださり、とても丁寧に指導して下さった筑波大学附属図書館の皆様にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

(とみた・きょうこ 図書館情報学科3年)



法常 知子

今回の図書館実習では、カウンター業務、目録作業、雑誌サービス、視聴覚メディアサービス等を体験しました。図書館の業務を様々な角度から知ることができました。

カウンター業務は利用者と直接、対面する仕事でした。貸出、返却のほかに、利用者からの質問、そして時には苦情、たくさんのことに対応しなければなりません。まるで、接客業のようでした。そして、目録作業はずっと、パソコンの画面を相手に作業します。作業を進めていく上で、何度も間違いがないかチェックします。目録に間違いがあっては利用者が資料を探しにくくなり、困ります。だから、何度も何度も確認し、見直しながら作業していくのです。とても大変でした。

この実習で、図書館業務についてのキーワードを一つ学びました。それは「利用者本位」ということです。図書館は利用者の要求に応え、そして、利用者が図書館をもっと活用してもらうには何をしたらよいか、答えを見つけながら仕事をしていかなければならないということを考えさせられました。図書館の業務は利用者からは見えないものが多かったです。しかし、それらの仕事は利用者が図書館を使いやすいようにするためのことばかりでした。

今回の実習で私は多くのことを学ぶことができました。指導して下さった職員の皆様、本当にありがとうございました。

(のりつね・ともこ 図書館情報学科3年)



ASK US

としょかんミニガイド

EPICWIN7000について



中央図書館には、平成13年度より、精細なデジタル画像で貴重な書籍を保存できる、ミノルタの高性能ブックファイリングシステム（以下EPICWIN7000）が導入されています。このシステムは、相手側PCにこのシステムに対応したソフトウェアがあれば、ネットワークを介して情報を幅広く効率的に利用できるという特徴を備えて

います。

中央図書館では、同様のシステムを持っている他の大学図書館との相互利用業務の手段としてこのシステムを使用しています。また9月からは、東京の大塚図書館との間でもこのシステムを使った筑波・東京地区間の学内相互利用業務を開始いたしました。

システムの特徴

EPICWIN7000は、スキャンする面を上に向けたまま撮る方式なので、原稿を下向きに押さえつける必要がありません。厚い書籍や貴重な資料でも、ページや装丁に負担をかけることなく、やさしく撮ることができます。また、ページの湾曲にあわせてスキャンした画像を自動補正するため、これまでのように綴込み部分に影が出ることもありません。

スキャニングは最大A3サイズまで可能です。また、最大600dpiのデジタルスキャンを行うので、細かな文字や線なども忠実に再現し、高精細、高品位な出力が可能です。出力前にスキャンした画